

令和3年2月22日

日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会
新型コロナウイルス感染対策合同委員会

委員長 菊地 勘
副委員長 山川 智之
副委員長 竜崎 崇和
副委員長 南学 正臣

クラスタの発生防止のための感染対策徹底のお願い

平素より合同委員会の活動にご協力をいただき、また透析室における感染対策へのご尽力をいただき、ありがとうございます。

緊急事態宣言による一般人口の COVID-19 新規感染が減少傾向となり、透析患者における市中感染を原因とする孤発例（病気が散発的に起こること）は減少しております。

しかし、東京都をはじめとする緊急事態宣言の対象地域の一部では、長期入院透析を要する病院や高齢者入居施設などでの、COVID-19 透析患者のクラスタが複数発生しております。そして、当該施設の中には、全患者の転院を必要として、一時的に病棟を閉鎖する必要性のある施設が発生しております。これにより地域の入院病床がひっ迫する事態となり、孤発例への十分な対応ができなくなる地域がでております。この原因の断定はできませんが、長期入院透析施設など明らかに患者の外出がない施設では、医療従事者から患者、その後に患者から患者などの感染伝播が推定されております。

COVID-19 の発生から1年以上が経過しており、各施設においては十分な感染対策を行われていると思いますが、医療従事者においては、長期にわたる新たな生活様式や COVID-19 対策への、疲れやゆるみがでている可能性があります。

ワクチン接種が開始され、今後感染制御が可能になることが期待されます。今しばらく医療従事者の皆様におかれましては、今一度気を引き締めて頑張ってくださいと思います。また、各施設におかれましては、感染対策の徹底を何卒よろしくご願ひいたします。